

樽建庶 第 138 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

小樽市長 山 田 勝 磨



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

このことについて、平成20年9月19日付け国道企第37号で照会のありましたこと
のことについて、別紙様式①～④のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らい
くださるようお願い申し上げます。

（建設部 庶務課）

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

① 高規格幹線道路による高速交通ネットワークの整備促進について

本市や後志圏の活性化に繋がるとともに、道央圏の高速環状ルート形成の役割を果たす北海道横断自動車道の黒松内～余市間(約79km)の早期着工と早期供用開始を要望します。

② 道路整備に係わる予算の確保について

道路特定財源の制度が平成21年度から一般財源化されますが、一般財源化されても必要な道路整備の予算は確保していただくよう要望します。

③ 地方道路整備臨時交付金事業制度の継続・拡充について

自治体の自主性・裁量性が活かされる地方道路整備臨時交付金事業制度の継続・拡充を要望します。

④ 道路整備に係わる補助事業制度の見直しについて

(ア) 自治体の自主性・裁量性が活かされる補助制度の見直しを要望します。

(イ) 市の単独事業である道路の維持や除雪に係わる経費、臨時市道整備事業等の起債により進める生活関連道路の改良事業に対する補助制度の新設を要望します。

(ウ) ロードヒーティング整備(更新)に係わる狭隘な道路の採択基準の見直しと補助率の引き上げを要望します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道小樽市

⑤ 市道の維持管理における財政的な支援について

本市の市道は路線数約1500本、延長約578kmですが、積雪寒冷地であることから特に老朽化が進んでいます。また、橋梁については135橋所管していますが、定期点検や耐震化が進んでいません。これらの除雪を含めた市道の維持管理には多額の費用を要することから、財政的な支援を要望します。

⑥ 積雪寒冷地という本市の特殊事情を考慮した補助制度の新設等について

本市は市街地が山と海岸線の間に自然発生的に広がった傾斜地の多い地形であることから、急勾配かつ狭隘な道路が数多く存在するまちですが、積雪寒冷地であることから、幅員確保のための排雪を行っても陸域の雪捨て場がなく、その処理に多額の費用を要しています。雪推積場設置の補助制度の新設等これらの経費に係わる財政的な支援を要望します。

⑦ 景観に配慮したまちなみ形成の支援等について

魅力的なまちなみを形成するための景観に配慮した道路の整備や、景観とともに防災や冬期間の歩道幅員の確保等にも寄与する電線類の地中化を要望します。また、電線類の地中化においては、市の負担を軽減するための補助制度等の見直しを要望します。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

小樽市は後志・道央圏の交通結節点として機能の充実が求められており、地域間交流の円滑化や産業活動を振興し、さらには交通渋滞や災害時の代替ルートの確保のため、広域交流ネットワークである広域交通網の整備が必要であることや、年間750万人の観光客が訪れる国内有数の観光地として知られていることから、歴史的まちなみを生かしたまちづくりが必要であるため、道路などの都市施設の充実を図る必要があります。

また、本市は、平地が少なく起伏に富んだ地形に加え、古くからまちなみが形成されてきたことから、道幅が狭く、急坂な道路が多いため、道路の拡幅や線形改良、歩道設置などの整備が必要である。

一方、本市は多雪地帯でもあることから、急坂・狭隘な道路において、市民が安全快適な生活を送るため、除排雪体制の充実を図ることが重要な取組となっています。

これらの状況を踏まえ、今後の道路施設については、重点化、効率化を進め、道路施設等の老朽化した施設の更新を含めた整備、維持管理や景観を含めた道路環境づくりの推進のために必要な予算を確保することが不可欠です。

○課題

① 広域交流ネットワークの確立

- ・ 北海道は広域分散型の地域構造であり、都市間距離が長いことから、広域交通ネットワークの確立は、物流、防災、緊急医療等の観点から重要であり、緊急に整備する必要があります。
- ・ 国土開発幹線自動車道(国幹道)基本計画区間である黒松内～余市間の早期整備が必要です。
- ・ 高速道路の利用促進が観光振興等に寄与することから、高速道路の利用料金について、一層の引き下げ等利用者利便の向上を図る措置が必要です。

② 市道・生活関連道路の整備

- ・ 高度経済成長期に建設された道路等の施設を有効に活用するため、改修・修繕への重点的な予算配分が必要です。
- ・ 自治体の自主性・裁量性が活かされる地方道路整備臨時交付金制度及び貸付金制度の継続・拡充が必要です。
- ・ 臨時市道整備事業などの起債により進める生活関連道路などの改良事業に対する補助制度を創設するとともに、財源措置の確立を図る必要があります。

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道小樽市

○現状

○課題

③ 道路環境づくりの推進

- ・ 交通事故多発個所における交通安全対策を講じる必要があります。
- ・ 高齢者や障がい者等の歩行空間を確保するため、バリアフリー化を進める必要があります。
- ・ 都市部や観光地における円滑な交通を確保するため、駐車場の整備を進める必要があります。
- ・ 東アジア圏等からの観光客を誘致し、観光産業を促進させるため、標識・看板等の多言語表示化を進める必要があります。

④ 冬期間における円滑な交通の確保

- ・ 通勤・通学の交通確保、経済活動の安定確保・促進、緊急輸送ルート確保のため、札幌自動車道において、降雪による通行止めが極力生じないように図られるなど、冬期間の安全かつ円滑な交通を確保する必要があります。
- ・ 急坂な道路や幹線道路の冬期間の安全と円滑な交通の確保のため、除排雪等の雪寒対策を充実する必要があります。
- ・ ロードヒーティングの整備や更新における補助率の嵩上げや維持管理費用における国費の充当が必要です。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

○課題

⑤ 景観を活かした道路施設等の整備

- ・ 自然、歴史、文化などを活かした道路景観の創出は、観光に寄与するとともに、まちに活力を与えます。こうしたことから、景観に配慮した道路の整備が必要です。
- ・ まちなみの景観の向上とともに、防災や冬期間の歩道幅員の確保にも効果がある電線類の地中化を進める必要があります。また、事業実施においては、地元自治体や受益者の財政的負担が進捗の妨げとなっていることから、財政的な負担軽減等の見直しが必要です。

⑥ 札幌都心部へのアクセス強化

- ・ 本市と札幌都心部との移動において、札幌自動車道の札幌西インターチェンジや札幌北インターチェンジなどから札幌都心部までの区間は、交通が混雑し時間を要することから、観光振興や経済活動のより一層の促進等を図るため、高速交通のメリットがより高まるよう、札幌都心部へのアクセス強化が必要です。

②-2 地域の目指すべき将来像

本市は北海道開拓とともに鉄道や港を中心に発展し、明治、大正、昭和初期の繁栄の時代に築かれた歴史的文化遺産を有し、日本海特有の変化に富んだ美しい海岸線や緑豊かな山々などの自然景観が一体となった情緒あふれるまちなみは、そこに暮らす人々の郷土に対する誇りや愛着をはぐくみ、訪れる人々を魅了するまちとして歩んできました。

これら、先人たちが築いてきた小樽特有のかけがえのない財産を守りはぐくみ、多彩な資源を効果的に活用しながら、にぎわいや活力に満ちた地域経済の創出に努めるとともに、本市の将来あるべき姿を市民とともに考え、行動する協働のまちづくりを一層推進し、だれもが健康で快適に暮らせる地域社会の実現を目指します。

- ・ 道路の整備を進め、安全で快適な生活環境の確保を目指します。

このため、幹線道路や生活関連道路の整備については、人にやさしい道路環境に配慮するとともに、円滑な交通の確保に努めます。

- ・ 地域経済と暮らしを支え、人や地域の結び付きと交流に寄与する交通ネットワークの確立を目指します。

このため、都市内交通については、交通網の計画的な整備や公共交通機関の利用促進など、機能の充実に努めます。

広域交通については、幹線道路や鉄道、バス、フェリーなど既存の交通機能の充実に努めるとともに、北海道新幹線や北海道横断自動車道など新たなネットワークの実現に努めます。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・国際競争力の強化のための交通サービスの向上 ・地域活力の向上	北海道横断自動車道 黒松内～小樽間 早期整備	後志管内の産業・観光の発展や住民生活の向上を図るためには、高速ネットワークの確立が不可欠である。また、防災上からも南回りの北海道縦貫自動車道の代替ルートとして、北回りで道央と道南を結ぶ北海道横断自動車道黒松内～小樽間の効果は高く、余市～小樽間の早期完成、当初計画どおりの整備実現と黒松内～余市間の早期着工が必要である。	
・水害等の災害に強い国土づくり	一般国道5号「忍路防災」整備	落石崩落などの危険箇所の解消を図り、安全な通行を確保するため、早期完成が必要である。	
・都市交通の快適性、利便性の向上	一般国道5号「小樽市塩谷～余市間」の渋滞解消	本市を縦貫する国道5号は、後志管内をはじめ道央圏と道南圏を結ぶ広域幹線道路であるが、大型車両、観光客や海水浴客、冬期の積雪などによる交通渋滞が発生しており、市民生活の向上や産業・経済の発展を図るうえから早急に整備することが必要である。長橋バイパスや塩谷地区の4車線の供用開始により、スムーズな交通の確保など大きな効果が発揮されているが、引き続き、塩谷～余市間の渋滞解消のための対策が必要である。	
・地域活力の向上	一般国道393号「小樽～赤井川間」の隘路区間の解消	一般国道393号は、後志内陸部と札幌市域を短絡する重要な路線であるが、標高差が大きく急坂でカーブが多いことから交通安全対策が強く求められており、幹線道路機能の確保に向けた新ルートの早期着工が必要である。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	一般道道小樽西インター線整備	本道路は、北海道横断自動車道(余市～小樽)の事業区間における、小樽市域唯一のインターチェンジに接続する道路であり、地域の発展に大きく寄与する道路として期待される。	
・国際競争力の強化のための交通サービスの向上 ・地域活力の向上	一般道道天神南小樽停車場線～臨港道路小樽港縦貫線間の整備による物流拠点へのアクセス向上	本路線の整備により、道道小樽港線と港湾道路小樽港縦貫線とが接続され、小樽港やフェリーターミナルとのアクセスも向上することから、物流の迅速化、効率化が期待される他、現在、道道小樽港線の勝納交差点に集中している交通の分散が図られ、休日における若松交差点から勝納交差点にかけての混雑解消も期待される。	
・地域活力の向上	一般道道小樽環状線～一般道道小樽海岸公園線間の整備による観光交通ネットワーク化	「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定された風光明媚な海岸線沿いの観光施設を有機的に連携させることが可能な道路交通ネットワークを構築するため、オタモイから赤岩・祝津方面への円滑な道路環境の整備が必要である。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	主要道道小樽定山溪線の拡幅	平成12年4月の通年開通により、本路線を利用した道央観光ルートの実便性が高まっており、朝里川温泉地区を訪れる観光客や交通量が増加していることから、地区の幹線道路である本路線の歩行者空間や冬期堆雪幅等の拡充が必要である。	
・都市交通の快適性、利便性の向上	一般道道小樽環状線の線形改良	近年のレジャー指向により、自家用車などの交通量が益々増大している中、通過交通による中心市街地の交通混雑の解消や後志圏・札幌圏へのアクセス充実や、沿線住民の交通の利便性向上を図るため、平成14年に完成した潮見台工区に続き、本路線の整備が必要である。	
・大規模な地震、火災に強い国土づくり等	主要道道小樽港線の耐震化	高速自動車道と運河周辺地区や国道5号を結ぶとともに、小樽築港駅周辺再開発地区への重要なアクセス道路である本路線の耐震対策などが必要である。	